

研修項目

議員・職員のための子育て支援・福祉介護集中講座 I N博多

「子育て支援と虐待防止」、「高齢者福祉と介護保険」

研修団体及び講師

株式会社地方議会総合研究所

講師 東京有明医療大学准教授 千葉喜久也

研修日

平成28年7月14日（木）午前9時30分から同日午後4時30分

研修目的

「子育て支援と虐待防止」、「高齢者福祉と介護保険」の現状と対策

研修内容

1 子育て支援と虐待防止

○ 研修内容は別紙レジュメのとおり

○ 行政として考える子育ての基本

今なぜ行政が子育て支援をするのか。日本の子育ては親に丸投げがしているのが、日本の歴史である。また、社会で育てるといいながら社会的養護の認識は低い。

そこで、行政として子育てとどう向き合っていくかが今後大切なキーワードである。

また、社会で育てるという意味で経済的支援を行なっているが、行政が行なっている「児童手当」で親の収入で規制をかけるのは世界を見ても日本だけである。

本当に子育て支援について重要性を感じていないのではないか。

○ 虐待について

虐待はどこでも起こることを認識しなければならず、虐待の認識には個人間で「ズレ」が生じている

- どうしたら虐待が防げるか考える必要がある。虐待の認識には個人差があるために個人差をなくす方策が必要である。この方策を議員として考える。

2 高齢者福祉と介護保険

- 研修内容は別紙レジュメのとおり
- 高齢者福祉の生活支援とは、高齢者が朝、目を覚ました時、ベットから起き上がる時に手助けすることである。これが高齢者福祉の基本である。
- 高齢者福祉に必要なことは手助けすることではなく、仕事を与えることで自分を取り戻させること。そして、希望を与えること。希望がなくなると生きがいを失うものである。現在の特養老人ホームでは自発性がまったくない。よって、生きる希望が湧かず、介護保険料を使うばかりである。当然、そこには生産性がない。
- 福島県内には高齢者が葉を採取して販売している町がある。高齢者が町の中心であり、生きる希望がある。現在は自分の子供家族を地元呼び戻し、活気が溢れている。こんな成功事例の町を研究して全国で展開するべきである。
- デイサービスで車の送迎をしているが本当に必要なのか考えるべきである。主体は誰なのか。そう考えると徒歩での送迎もあってもよいのではないか。自分達の都合で介護を考えるから、高齢者の身体機能が低下していく現状を認識することが必要である。
- 介護保険を使う高齢者を作るのではなく介護保険を使わない高齢者を作ることが議員の使命である。
- 世の中で一番贅沢なことは人の為に一生懸命尽くし、その人の喜びを見て密かに楽しむこと。議員として心構えとしてしっかりと心に留めておく必要がある。

質疑応答

特になし

呉市での展開の可能性

幼児虐待の取り組みとしては、

- 18歳までの子供に対して呉市役所から誕生日カードを贈る
- 保育所、幼稚園の空きスペースに一服ができる場所を確保し、気軽に職員・保護者同志が話ができる意思疎通の場を設ける。

等の施策を考えて実行することで、地域で子供を育てている意識を持つことが必要ではないか。

また、高齢者福祉については事業所が行なっていることに対して、まったく疑問も持たずにいたが、介護を必要とする高齢者に対して「生きがい」を持つことができるサービスを考えて、担当職員に対しても意識改革を持っていただくよう啓発していきたい。

研修項目等

議員・職員のための地域包括ケアシステム・福祉政策集中講座 I N博多

研修項目

「地域包括ケアシステム」、「変わる福祉と求められる政策」

研修団体及び講師

株式会社地方議会総合研究所

講師 東京有明医療大学准教授 千葉喜久也

研修日

平成28年7月15日（金）午前9時30分から同日午後4時30分

研修目的

「地域包括ケアシステム」、「変わる福祉と求められる政策」について

研修内容

1 地域包括ケアシステム

- 研修内容は別紙レジュメのとおり
- 介護保険を使わない高齢者に対して方策を考える
- 地域づくりが必要である。すなわち、生まれ、育ち、住んでよかったと思う地域をどう作っていくか考える必要がある。

高齢者は住んでいた地域をよく覚えていることから、環境の変化には敏感であり、環境が変わるだけで「生きがい」をなくしてしまいます。

- サービスを全国同一にするという基本があるが「介護サービスありき」ではなく、どうしたら元気な高齢者になるかということを考えるべきである。

2 変わる福祉と求められる政策

- 研修内容は別紙レジュメのとおり
- 福祉社会は安心社会である。福祉社会を充実することにより、人口増加が見込まれ、さらに雇用が生まれる。このような社会を作ることができれば、100年に1度の経済不況は福祉立国で対応することができる。

- 高齢者は働きたいという意識持っている。行政として働き場所を考え提供することにより、生きがいを持つことになる。

フルタイムの雇用を考えるのではなく1時間でも働くことができるような制度を作ること。例えば本が好きな人を図書館で本の整理をさせる。とか、歩くのが好きな人であれば子供の登下校の際にスクールゾーンを歩くとか。行政が考え方を変えるだけで、いくらでも考えることができる。

- 議員としての自信と誇りを持ち、視点を変えて将来を見据えること。
- 議員を目指したときの志を大切にし、それを実現する行動をする。
- 行政ができないという常識を疑い、やれないことを議員はやること。
- あきらめたら希望はない。あきらめる議員は必要ない。

質疑応答

特になし

呉市での展開の可能性

- 呉市は2年後に後期高齢者がピークを迎え、その後減少に向かう。
現在、呉市で行われている地域包括ケアシステムは全国の先進事例になることが予想されるので、しっかりとチェックしていき、意見具申していきたい。
- 高齢者福祉について現状をそのまま受け入れていたが、今後き特養老人ホーム等に入居している高齢者が「生きがい」を持ち、社会に復帰できるような施策を考えていきたい。
また、働きたいという高齢者に対する働く場を提供できるよう考えていきたい。